

モノづくり現場での材料ロスの見える化と情報開示への準備
～SDGs やカーボンニュートラルの流れを見据えた現場対応～

- 【日 時】 令和5年10月18日(水) 14時00分～16時00分
【会 場】 Zoom オンライン
【講 師】 田脇康広 氏 技術士(環境部門、総合技術監理部門)
【受講料】 無料
【定 員】 30名(申込順)
【対象者】 経営者、管理者、実務担当者
【申込方法】 FAX または E-mail(裏面参照)
【申込締切】 令和5年10月17日(火)

食品ではカロリーや成分の表示、家電製品では省エネ性能(☆マーク)表示が当たり前で、消費者の重要な購入判断材料の一つになっています。同様に、ビジネスでは発注や投資・融資の前に、製造時の原材料やエネルギーの使い方などの情報開示を求めるケースが増えています。これはSDGsのゴール12「つくる責任、使う責任」や2050年のカーボンニュートラル達成とも深くかかわる流れです。

事業所の中では従来から材料合理化、省エネ対策等は経営の重要課題として推進されていますが、今回は、材料ロスの見える化(マテリアルフローコスト会計/MFCA)と、その結果を情報開示(カーボンフットプリント/CFP、ライフサイクルアセスメント/LCA、スコープ3/Scope3)にも使えるよう準備する方法について実例を交えてご紹介します。

【内 容】

1. 環境取組が求められる背景
 - ・取引先や市場(消費者)の要請
 - ・企業の経営体質強化、ブランド価値向上、社会貢献
2. 品質向上、コスト削減は環境取組そのもの
 - ・不安をあおる報道、曖昧な情報に振り回されない
 - ・モノづくりの現場では取組は既に推進中。課題は見せ方、説明の仕方
3. 取組事例の紹介
 - ・社内で将来の情報開示を想定した見える化ツールを作り、運用した事例の紹介
 - ・要請されて実施ではなく、実施したものを要請があれば開示という発想の転換

講師プロフィール 田脇 康広 氏 技術士（環境部門、総合技術監理部門）



【資格】技術士（環境部門、総合技術監理部門）、エネルギー管理士、計量士（一般、環境（濃度））、ISO14001 審査員補
 【得意分野】脱炭素（省エネ、CO2 削減、見える化）、環境管理（RoHS、ISO14001 認証取得・維持、MFCA、LCA）
 【自己PR】電気機械器具製造会社で国内外の製造事業所の環境管理を担当。その後環境省の脱炭素補助金事業の執行代行責任者を経て、2020 年田脇技術士事務所設立。三方（売り手、買い手、世間）良しの精神と三現（現場、現物、現実）主義で課題解決します。

【申し込み方法】

E-mail または FAX でお申込ください。

モノづくり現場での材料ロスに見える化と情報開示への準備 ～SDGs やカーボンニュートラルの流れを見据えた現場対応～ （10月18日開催）参加申込書			
令和 年 月 日			
会場： オンライン（Zoom）のみの開催です。			
ふりがな 企業名		住所	
役職		ふりがな 氏名	
連絡先	電話		
	E-mail		

※ 必要事項をご記入の上、FAX（044-548-4151）もしくは、同内容を E-mail jinzai@kawasaki-net.ne.jp までお送りください。

※ FAX の場合は、参加申込書を切らずにそのまま送信してください。

※ 受講票は発行いたしません。

※ 定員超過によりご参加いただけない場合に限りご連絡いたします。



【お申込・お問合せ】

公益財団法人川崎市産業振興財団 担当：永井 Tel. 044-548-4143 Fax. 044-548-4151